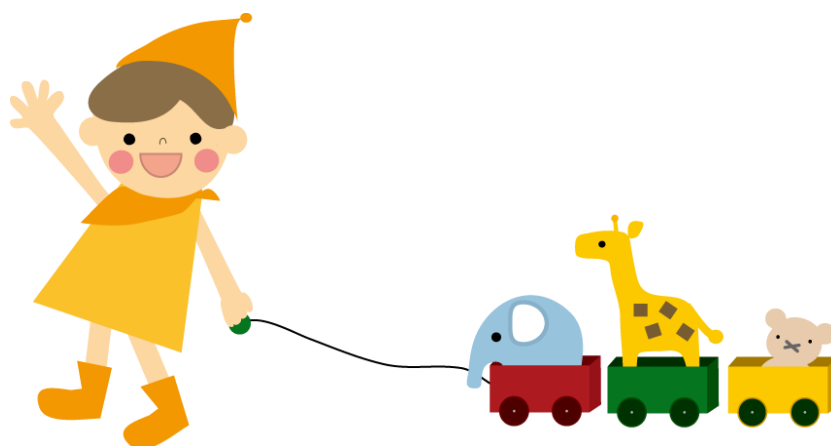



家庭教育子育て支援事業

# 知育あそび



名前

---

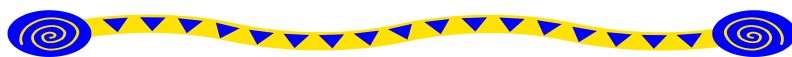
 印南町教育委員会 いなみっ子応援隊

住 所：印南町大字印南 2252-1 TEL：0738-42-1700 FAX：0738-42-1577

メール：[kyoiku@town.wakayama-inami.lg.jp](mailto:kyoiku@town.wakayama-inami.lg.jp)

～子育てするなら印南町～

# もくじ



1. 音を奏でる
2. 手を動かす
3. カラダを使う
4. コトバで「脳」を育てる
5. アタマを使う
6. ごっこ遊び





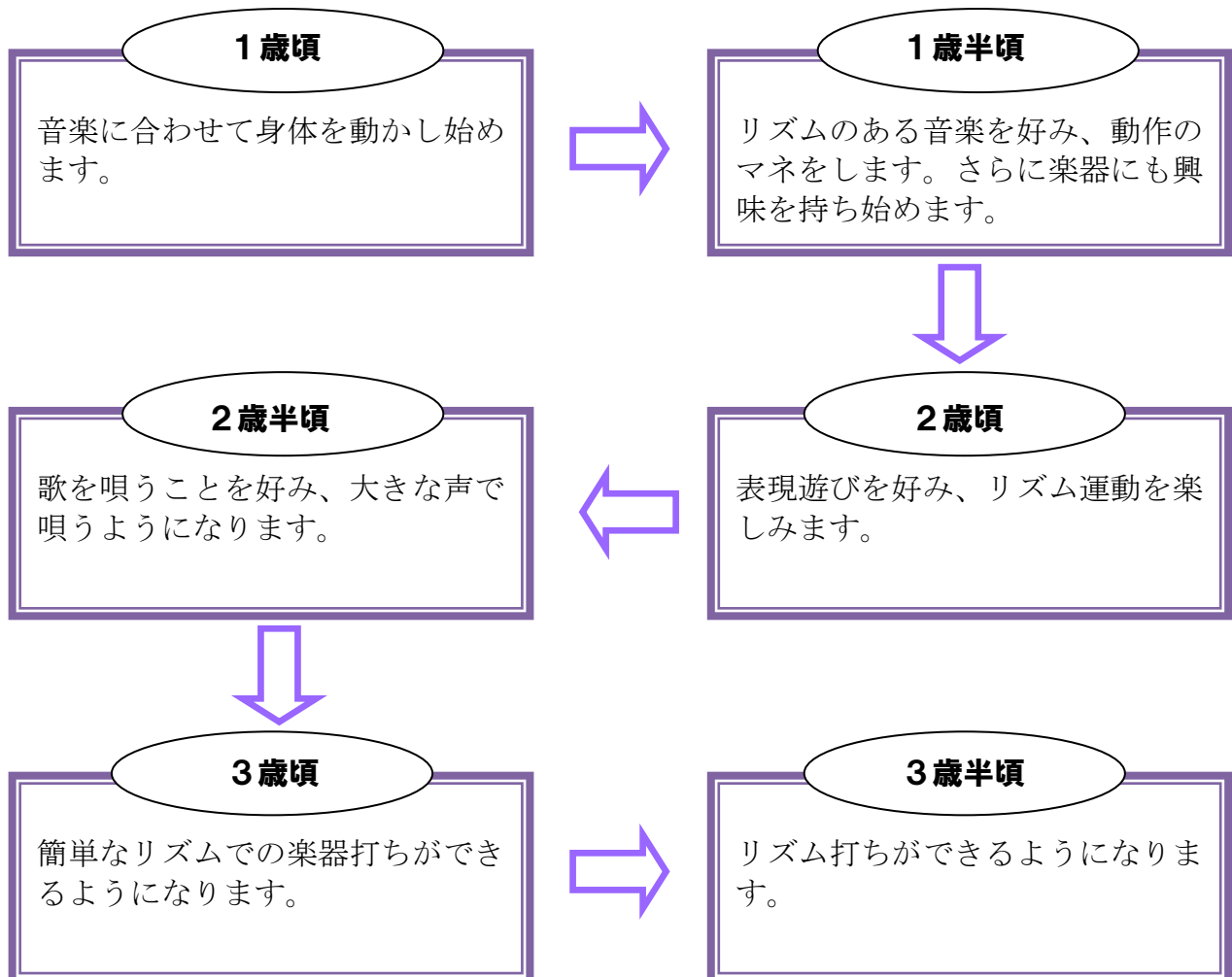
# 音を奏でる

音の刺激は脳を育てる大切な要素。叩いて、振って楽しいおもちゃが豊かな感性を育てます。

赤ちゃんは生まれる前から聴力を持ち、誕生後すぐに身のまわりの生活音や音楽などさまざまな音を聞いて育っていきます。音の刺激は脳の神経を発達させ、さらに音やリズムは身体を動かすことにも深く関係してきます。脳と身体発達に応じておもちゃを変え、聞く音から奏でる音へと楽しさをふくらませてあげましょう。1歳頃には叩く、振るなどの簡単な動きで音が鳴るようなおもちゃで、3歳頃には楽器風のおもちゃによって、リズム感や感性を伸ばしてあげましょう。



## 音楽・リズムを楽しむ子どもの成長ステップ



# 手を動かす

3歳頃までで「さわる」から「考えて作る」に。年齢に合った「手」を使う遊びで五感を育てましょう。

まだ自由に動くことができない赤ちゃんでも、自分の周囲のものを見つけて、手にとることはできます。この行為は外の世界を知る大切なものであり、手指を動かすことと脳の働きとは密接に関係していると言われています。触る、握る、つまむなどの基本的な遊びから、組み立てたり並べたりと頭を使って楽しむゲーム感覚の遊びまで月齢に適したおもちゃを使い、五感を伸ばすようにしましょう。

## 脳を刺激する、年齢別の手を動かす遊び

### 0～1歳 指先を刺激する

半年を過ぎたら小さいものもつまめるようになるので、触感のやさしいおもちゃで「つまむ・出す」という遊びを体験させてあげましょう。



### 1～2歳 指先に力を入れる

指先が器用になってくる時期。いつも使う手、つまりきき手のはっきりしてくることでしょう。はめる・さし込む行為ができるおもちゃなら、両手を同時に使う感覚を身につけられます。

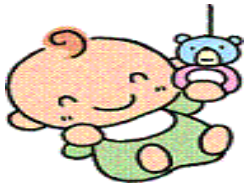
### 2～3歳 手の力をコントロールする

力を加減することや、なめらかな動きができるようになります。積み木やブロック、ひも通しなど考えながら遊ぶ機会を与え、創造力を養いましょう。また、指先に注意を集中するため、集中力もつきます。

# カラダを使う

運動機能はもちろん、脳の発達や感覚機能を高め、健やかなころと身体をつくりましょう。

子どもは生後半年を過ぎた頃からお座りができるようになり、身体を支えて膝の上に立たせるとピョンピョン跳ねるようになってきます。1歳前後には一人歩きができ、身体を動かす遊びによって運動機能を高めていきます。また、身体を動かす遊びは脳の発達のためにも大切だと言われ、感覚機能やコミュニケーション能力の育成にも役立ちます。1歳半頃になると、外で活発に身体を動かす遊びがますます好きになってきます。子どもの遊びたい気持ちを伸ばしてあげましょう。



## カラダを動かす遊びの目安

### 生後6ヵ月頃

寝返りができる赤ちゃんが増えてきます。

首や頭、手や足を使って体を動かしたり、仰向けから横向けへと体を回転させる大きな動きは重要です。自分の体を使って遊ぶ事を学んでいきましょう。

### 1歳頃

身長は生まれたときの約1.5倍、体重は約3倍になります。

手と目を同時に使えるようになるので、さし込むなどの複雑な動きができるようになります。また手を使って感触を楽しむ遊びもいいでしょう。

### 1歳半頃

手と足を使って、階段の上り下りができるようになってきます。

一人歩きができるようになる頃。手指の動きもますますうまくなり、ボールを投げる、積み木で遊ぶという遊びができるようになります。



# コトバで「脳」を育てる

生まれてすぐから、脳の活動は始まっています。「絵」と「声」で脳を刺激して発育を促しましょう。

脳がもっとも発達するのが、0～4歳の時期。この時期はまさに絵本適齢期。読み聞かせなど絵本を上手に使うことで脳の発育はもちろん、絵と言葉によって人の気持ちに共感する力、感情を豊かに伝える表現力など、心の知能指数を育ててあげましょう。きっと「生きる基礎力」として生涯、役立つことでしょう。

## 脳と感受性をすくすく育てる絵本の読み方

### 読み聞かせ

「絵」を見て、お話を「聞き」ながら想像力を広げていくことのできる「読み聞かせ」はまさに成長ざかりの子どもにとって絶好の刺激。毎回、違う本を読むよりも、頭の中でイメージがしやすいよう、同じ本を何回か読んであげるといいでしょう。

### 一緒読み

子どもにとって「一緒読み」は読む人との“思い”を共有する大切な体験。ページめくりを子どもがしたり、お気に入りの言葉を一緒に読んだり、登場人物のセリフを言い合ったりしてあげてください。読む人とのこうした心のキャッチボールが、将来の人間関係づくりの大切な基礎になっていきます。

### ひとり読み

絵本の楽しさがわかると、今度は自分で読み始め、周りの人に聞かせるように声を出して読んだり、物語について話すようになります。こんなときは、きちんと聞いてあげてください。子どもが「受け入れられた」と感じることで、表現する楽しさや積極性がさらに大きく芽生えていきます。



# アタマを使う

2歳前後は言葉を飛躍的に覚える時期。知能を伸ばすためにも言葉のやりとりを積極的に行いましょう。

赤ちゃんの心と身体の発達はめまぐるしいものがあります。生後4ヵ月を過ぎた頃から運動能力と脳がめざましく発達し、1歳前後には意味をもつ言葉を発するようになります。この1歳から2歳前後にかけては言葉のやりとりを積極的に行い、話す能力や知的能力を伸ばしてあげましょう。また、たくさんのものにふれる、刺激を与える、体験を豊かにするなどによって、感情の豊かな子どもに育つとも言われています。

## 1歳～3歳向けの知能を伸ばす遊び



### 1歳頃 絵本でクイズ

絵本を見せながら「これなあに?」「これは〇〇ですよ」と言ったり、身のまわりのいろいろなものを見せることで好奇心を引き出しながら、どんどん話しかけてあげましょう。

### 2歳頃 形や色を見せる

言葉を爆発的に覚えるのがこの時期。日常生活の中でもものの形や色を教えるチャンスはいろいろありますので、体験的に理解できるようにしてあげましょう。

### 3歳頃 立体パズル

手先を使う細かな作業が上手になるため、ブロック遊びやパズル遊びで指先を使いながら創造力を高めてあげましょう。

# ごっこ遊び

2歳を過ぎると創造力がつき、「ごっこ遊び」を始めるようになります。  
子どもの世界を尊重してあげましょう。

ままごとは男の子も女の子も大好きです。2歳を過ぎる頃から徐々にお友達に「ハイ、どうぞ」とよそってあげる「マネ遊び」をするようになります。他者とのかかわりの中で、家族やお店屋さんなどを演じながら、さまざまな社会性を身につけていきます。この「ごっこ遊び」は大人があまり介入しないようにし、子どもたちが描くイメージをできるだけ尊重してあげようとするのがベスト。さらに子どもが行う「ごっこ遊び」によって、親や先生などとの関係をどう受け止めているかや、そのときの子どもの心の状況を感じ取ることができます。



## 2歳を過ぎた頃からのマネ遊び

### ●ままごと

あこがれの仕事や、やってみたいことはさまざま。お茶を注いだり、赤ちゃん（人形）をあやしたり、野菜を切ったりとお母さんのマネを楽しむ「ままごと遊び」は子どもの創造力を育み、言葉を豊かにします。

### ●ヒーローごっこ

男の子はヒーローものが大好き。何かを武器に見立てて戦いのポーズを取りながら遊びます。エスカレートすることもあるので、きちんとしたルールを教えるキッカケにもなります。





## 印南町幼児教育目標

- 1、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う【健康】
- 2、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う【人間関係】
- 3、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う【環境】
- 4、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う【言葉】
- 5、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする【表現】

